

今の20代教師は何を求めているのか？

# 月刊教職研修

# 12

教育管理職のための総合研修誌 ―学校を動かすビジョンとリーダーシップ

The Kyoshoku Kenshu December 2016 Vol.45-4 Whole Number 532

[編集顧問]市川昭午／若井彌一／天笠茂

平成28年12月1日発行  
通巻第532号(毎月1回1日発行)  
昭和47年10月26日第3種郵便物認可

2016

〈特集1〉

## 教職員の“ホンネ”汲めていますか？

# 20代教職員との

# かかわり方・育て方・活かし方

〈特集2〉

“受け身”の図書館にさようなら!

## 子どもが集まる、学びを広げる

## 「学校図書館」への変身

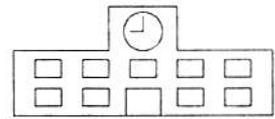
〈巻頭インタビュー〉

## 武術に学ぶ、 体の使い方と心への影響

甲野善紀(武術研究者)

わが校  
自慢の  
1枚





# アクティブ・ラーニング先進事例

— 実施体制づくりから、授業の実際まで

第18回

## 茨城県立 並木中等教育学校



校長 中島 博司

### ◆学校の概要

本校は、平成20年4月8日に第1回入学式を挙行し、今年度で開校9年目になる中等教育学校である。所在地は、茨城県つくば市並木、学校規模は、1年次4クラス160名（男女各80名）、6年次合わせて定員960名である。

「Be a top learner」を校是に掲げ、「人間教育」「科学教育」「国際理解教育」を柱とした6年間の中高一貫教育を行い、次代の日本・世界の発展を担う「人間力」を備えたグローバルリーダーの育成に取り組んでいる。

目指す学校像と育てたい生徒像は、以下のとおりである。

#### 【目指す学校像】

- ① 様々な体験学習を通して広く人間教育を行う学校
- ② 筑波研究学園都市の一角に位置するという地域性を生かし、大学や研究機関と連携して科学教育を行う学校
- ③ 外国からの研究者・留学生との交流や海外語学研修などを通して、国際理解教育・コミュニケーション能力育成教育を行う学校

#### 【育てたい生徒像】

- ① 高い志と、それを実現しようとする意志をもつ生徒
- ② 創造性豊かで、高い知性を持ち、広い視野から物事を考える生徒
- ③ 自他を共に敬愛する心と、物事に感動する豊かな感性をもつ生徒

本校は、これまで卒業生を3回出したが、生徒たち・先生方の努力の結果、すばらしい進学実績をあげている。東京大学へは、3年間で16名が入学している。また、旧帝大など難関国立大学、医学部医学科、難関私立大学へも多数の合格者を出している。これは、6年一貫の丁寧な教育により「真の学力」を身につけた結果であると考えている。

### ◆アクティブ・ラーニング（AL）導入の経緯と実施体制づくり

私は、平成27年4月に茨城県立牛久高校の校長となって以来、「アクティブ・ラーニング」（以下、AL）と「二つの新テスト」と「次期学習指導要領」について、研究を進めている。最近、各所で研修会の講師も務めている。本校校長への着任は平成28年4月である。

本校では、教員アンケート等により「並木中等が理想とすべき教育のあり方」を追求し、平成26年度から、毎月1週間の「授業ちよつと見週間」（相互参観）を始めた。そして、平成27年度からALの取り組みを始め、外部講師による校内研修（11月）や、公開授業（12月）を実施してきた。

授業改善については、校務分掌の「学習進路部」が担当しており、そこにはAL推進担当者もいる。今年度は、一人1回以上、事前に授業方法を予定表で連絡して「AL公開授業」が行われており、毎月多くの先生方の創意工夫されたALを見学できる。

### ◆アクティブ・ラーニング型授業の実際 ——「AL指数」と「R80」の考案

本校では、昨年度よりALがスタートしているのですが、今年度私が着任してALについて話しても、先生方の理解力・吸収力がある。

しかし、AL研究の過程で、多くのAL型授業を見たり、セミナーに参加した結果、次の四点が課題であると考えている。

- ①AL型授業が形だけになってはいないか
- ②アクティブラーナー（能動的学習者）の育成という目的に向かっているか

③ALか講義かという二項対立的な議論になっていないか

④ペアワークやグループワークだけで学力は向上するのか

以上の課題に対応するために、私は、「AL指数」と「R80」（アールエイティ）を考案し、現在この二つを全国に発信している。以下、二つについての解説を記す。

#### (1) 「AL指数」

とくに③の課題に対して、平成28年3月に考案したのが「AL指数」である。「AL指数」とは、ALの実施率を示す指数である。たとえば、50分授業でAL5分間なら「AL10」、AL10分間なら「AL20」である。また、週5時間の授業でAL1時間の場合も「AL20」となる。

私は、高校の地理歴史・公民科の教員であったため、その指導内容の多さはよく分かっている。よって、高校においては、従来の知識伝達型の講義も必要であると考えている。現在、私の提唱している高校ALの理想は「AL20」である。つまり、1時間の授業の約2割をAL化するということである。

本校には、中学校段階の生徒もいるが、これらの授業は「AL50」が普通となっている。中学校と高校とでは、ALについて少し

分けて考えた方がよいというのが、現在の私の見解である。

#### (2) 「R80」

次に前述④のALの課題に対応するために、平成28年5月に考案したのが「R80」である。その説明は以下のとおりである。

- 「R80」の読みは「アールエイティ」
- Rは「リフレクション（振り返り）」
- 「リストラクチャー（再構築）」のR
- 80は、自分で80字以内の文章を書くという意味

#### 〈基本ルール①〉

ALの最後に、リフレクションとして、ペアやグループで話し合ったことなどを、リストラクチャーして、80字以内で書く

#### 〈基本ルール②〉

必ず2文（2センテンス）で書き、その2文を接続詞で結び  
●目的は、思考力・判断力・表現力、そして論理力を育成すること↓それが学方向上につながる

●「新テスト」における記述式問題への対応策にもなっている